

第71回熊本県酪連通常総会開く



隈部 洋 会長

熊本県酪農業協同組合連合会の第71回通常総会が6月26日(水)、本会会議室にて開催されました。

総会では、隈部会長の挨拶、国・県・関係団体の来賓祝辞に続き、西阿蘇酪農業協同組合の山田政晴組合長を議長に選任し、令和5年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書および剰余金処分案承認の件、令和6年度事業計画承認の件など6議案が上程され、いずれも原案通り承認されました。

【令和5年度事業概況】

令和5年度の我が国経済は、コロナ禍の終息に伴う景気回復の兆しも窺えるなか、物価高騰や円安の進行と金利動向などに懸念が及びました。また、働き方改革や2024年問題など労働需給の逼迫に加え、世界情勢の動きにも注視が必要となっています。一方、能登半島地震の発生により、改めて大規模自然災害への対策も喫緊の課題となりました。

酪農界においては、飼料価格の高止まり、燃料・資材価格の高騰や副産物価格の低迷が続き、酪農経営は非常に厳しい状況で推移しました。特に、飲用向け乳価の再値上げが実施されたものの生産抑制や記録的猛暑が続くなか生乳生産は下振れするとともに後継牛の確保も課題となっています。

乳業界においては、牛乳乳製品の価格上昇に伴う消費減少が顕著となりましたが、需要期の需給調整に厳しさも見られました。また、今後の生産減少への不安とともに、引き続き脱脂粉乳の在庫低減対策や牛乳乳製品の価値向上に向けた理解醸成活動の展開が重要視されています。

このような状況のもと、生産本部においては乳

質管理の強化をはじめ、集乳業務の効率化や生産資材のコスト低減対策に取り組み、指導・購買事業の推進に努めました。また、搾乳後継牛確保や育成牛増産に対する支援と検診事業の充実を図りました。さらに、広域的な枝肉仕入を行い肉製品の販売拡大に努めるとともに、マザーズ市場への広域集畜や導入事業を積極的に推進し搾乳牛頭数確保に努めました。

乳業本部においては、価格改定による消費減少が懸念されるなか、量販店や業務用チャネルの拡売をはじめ、宅配市場での新規拡売や新製品の販売促進など積極的な営業活動により売上を伸ばしました。また、工場の安定稼働と安全・安心な製品供給のため、小型・大型容器用充填機の更新や冷蔵倉庫増設工事に着工し、日報電子化を進めるなど品質保証体制と技術力の向上に努めました。

管理部門においては、採用活動の強化による人材の確保に努めるとともに、人事制度構築を進めました。また、インボイス制度等法改正への対応、電子会議やデジタル研修を実施し各本部との連携・調整に努めました。さらに、冷蔵倉庫増設等設備投資関連の統制や、SDGsに係る取り組みを開始するとともに、組織整備では組合合併に向けての諸要件の整理と確認を進めました。

特別会計(阿蘇ミルク牧場)においては、本会と連携したミルク市場の改装や堆肥処理の改善に取り組むとともに、SNSインスタグラム公式ページを開設するなど理解醸成活動の強化に努めました。

【令和6年度事業方針】

わが国経済は、景気回復への兆しがみられるものの、為替変動や原材料コストの高止まりに伴う物価高騰により個人消費の減速が不安視されています。また、物流の「2024年問題」をはじめとする働き方改革等により人手不足も懸念されています。さらに、国際情勢は緊迫感が強まっており引き続き予断を許さない状況が続くと予測されます。

酪農界においては、一昨年から二回の飲用乳値上げも生産抑制や夏場の猛暑に加え、生産コストの高止まりと副産物価格の下落により依然厳しい状況が続いています。酪農家戸数の減少にも歯止めがかからず、生乳をはじめ適正な価格形成についての協議・検討が行われるなど、食料安全保

障に向けた抜本的な対策が求められています。

乳業界においては、値上げによる消費減少がみられるなか、生乳の減産により乳製品在庫は均衡を保っている状態です。生乳取引価格や原材料・エネルギー価格の高騰が続くなか、消費拡大を最重要課題として、牛乳・乳製品の安全性の確保はもとより、理解醸成など消費者の購買意欲に繋がる対策が求められています。

このような状況のもと、酪農生産基盤の維持・強化と本会経営の継続的発展のため、以下の事業に取り組みます。

生産本部においては、酪農生産基盤の維持・強化を図るため、飼養管理技術指導の強化、搾乳素牛導入や北海道預託事業への支援など搾乳後継牛の確保をはじめ、生産資材のコスト低減に向けた対策に取り組みます。併せて、新規就農や担い手支援を継続して実施します。また、食肉事業の販路拡大と肉製品の有利販売に努めます。

乳業本部においては、らくのう牛乳発売50周年を迎え、更なる新規開拓と積極的な営業展開による売上拡大を図るとともに、新製品の販売強化に努めます。また、熊本工場冷蔵倉庫の増設および菊池工場充填機を更新し、食品安全システムと品質管理体制の強化を図り、トレーサビリティシステムの構築に取り組みます。

管理部門においては、経営基盤の強化や組織体制の充実を図るため、財務体質の強化に努めるとともに、人材育成と魅力ある職場づくりを進め人事制度構築に取り組みます。また、デジタル化を推進し業務合理化を図ります。さらに、将来に向けた強固な組織を目指した組織整備に取り組みます。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、酪農・乳業の理解醸成施設としての機能を拡充するとともに、団体集客の強化と外部販売、および乳牛の飼養管理の強化に努め収益性の向上を図ります。



議長：山田 政晴 組合長



令和6年度ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン
～『牛乳贈呈式』を実施しました！～

平成9年より熊本県発祥で始まった、「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」。らくのうマザーズや熊本県酪農青壮年部・女性部協議会では、牛乳消費拡大に向けて、今年も活動を行います！

キャンペーンの一環として「父の日」である6月16日に先駆けて、6月6日に熊本県酪農女性部協議会の役員を中心に熊本県庁および九州農政局を訪問し、木村知事・北林農政局長へ牛乳の贈呈を行いました。今年度も牛乳（阿蘇の雫）や阿蘇ミルク牧場のチーズを関係者の方々に振舞い、「濃厚でおいしい！」といったお言葉をいただきました。また、用意したチーズについても完食していただけるほど、勢いよく食べられていたのが印象的で、牛乳・乳製品の魅力をアピールすることができ、さらに牛乳生産に携わるやりがいを再認識できるひと時となりました。



知事贈呈



県庁



九州農政局長贈呈



県庁全体写真



九州農政局贈呈



九州農政局

理解醸成活動in阿蘇ミルク牧場！

雨が降らないことを祈りながら迎えた6月30日（日）、阿蘇ミルク牧場で一般生活者を対象に牛乳や酪農への理解を深めてもらい、食や命の大切さを伝えることを目的とした理解醸成活動を行いました。

バター作り体験では、約80名の方に参加していただくことができました。家族で参加された方が大半で、生クリームが入ったボトルを家族で楽しそうに振る姿が見受けられました。

また、体験中に「酪農に関する」クイズを出題し、みなさん元気に手を上げて答えていただき、大いに盛り上がりました。

酪農教室では、牛乳の無料試飲や酪農についての説明、模擬牛や搾乳牛による搾乳体験など多くの一般生活者の方々に立ち寄っていただきました。老若男女問わず、興味津々で酪農について質問され、酪農家と交流を深めていたのが印象的でした。

今回の理解醸成活動は、昨年度から始めた青壮年女性部合同での活動となりました。家族連れのお客様から「牛乳試飲の飲み比べができて、面白かった！」や、模擬牛体験では、子供たちから「いっぱい出る！楽しい！」といった喜びの声が聞かれました。今回の活動を糧に、今後の醸成活動に繋げていきたいと思っております！



バターづくり



バターづくり全体



搾乳体験



酪農教室

現場取材！長命連産の牧場を求めて

生産本部指導部営農指導課 南條 健太郎

いよいよ暑い夏がやってきました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年度は国の事業において乳用牛長命連産性向上緊急支援事業が実施され、長命連産が注目を浴びています。長命連産とは「長生きして分娩を重ねる」という意味で、昔から言われる理想的な考え方ではありますが、繁殖、疾病（乳房炎含む）、低乳量などの問題により実際現場で継続していくことは難しいと思います。現在熊本県内の牛群更新率は約25%、平均産次2.4産、除籍牛平均3.2産（家畜改良事業団 熊本県牛群平均情報）となっており、多くの経産牛が4産を迎える前に牧場からいなくなっています。今回ご紹介する牧場は約20年以上前から長命連産を続けられているS牧場の管理方法や考え方をご紹介します。

S牧場の状況（繋ぎ、搾乳33頭、育成牛8頭、分離給餌）



（写真1）搾乳牛の様子

平均乳量	30.6kg
平均搾乳日数	192日
初回授精開始日	56日
空胎日数	147日
平均分娩間隔	416日
平均産次	3.5産
除籍牛平均	5.9産
※直近年間牛群検定成績	

② 繁殖管理

- ・初回受胎率は約56%、6月末現在で経産牛妊娠牛割合約70%（23頭/33頭、未受胎牛は5頭妊鑑待ち、フレッシュ牛5頭）。
- ・フレッシュチェックを必ず実施し、子宮が回復しているか確認を行う（分娩後約1ヵ月）。
- ・繁殖台帳やアクションシート（牛群検定）を基に発情周期の確認を怠らない。ホワイトボードやカレンダーを活用し情報共有する。
- ・状況によってはAI翌日に排卵確認を実施する（排卵していない場合追いAI）。
- ・各泌乳ステージに応じたボディコンディションの調整（繁殖問題での淘汰はほとんどない）。
- ・通常給与しているビタミン剤（マッシュタイプ）とは別にビタミンも発情発見時に適宜給与。

② 疾病対策

- ・除籍した理由を基に対策を実施する。昔は分娩後60日以内の疾病が多かった為分娩前後にビタミン、プロピレンG、Ca剤、強肝剤などを給与し（必要に応じて3産以上についてはCa点滴）、基本は分娩介助しないなどの対策を行っている。
- ・乳房炎は早期発見を重視し、もしブツなど症状があった場合はビタミンを給与する。
- ・慢性乳房炎については菌の同定や感受性を調べ、乾乳期に治療を実施する。
- ・エサ食いの悪い牛がいたら、体温を測定し、聴診器で胃の動きを確認する。自分で分かるところは確認し、状況に応じて獣医師へ連絡する。

MOTHER'S

② 飼養管理

- ・ 給与メニューは配合（一日4回給与）、自家配（単味、添加物等）、オーツヘイ、くまエコチェンジ、WCSを給与されており、牛の状態に応じて給与量を調整する（分離給与）。
- ・ 分娩前後を含めてボディコンディションの維持に努める（基本的に太らせない）。
- ・ イベント（分娩、発情等）ごとにビタミンを牛の状態に合わせて給与する。

カプセルビタミンの給与方法を下記にまとめました。

- 移行期 各1粒（分娩一週間前より5日間）、5粒（分娩当日） 各3粒（分娩後2～5日）
- 発情発見時 2粒×3日間（発情当日より3日間）
- 乳房炎発見時 3～5粒×5日間



(写真2) カプセルビタミン



(写真3) 乾乳牛の様子

現場での飼養管理等をご紹介しましたが、牧場主に話を伺うと2つのポイントを教えてもらいました。

1つ目は牛を大切に扱うことが大事であることです。牛は人間をよく見ており、過度に怒ったり、叩いたりすることで信頼関係が失われることもあるので、時には撫でたりすることで関係を構築できます。また、牛が長命連産することで生涯乳量も期待でき、多くの子牛が生まれ、乳牛の償却費も少なくなり結果として牧場の利益につながります。

2つ目は牛の改良です。健康で牛を長持ちさせるには肢蹄（X脚にならない、飛節がよらない）や乳器（高さや幅）の改良は重要とのこと。牧場主も現在の経営スタイルとなる前は経営で苦労された時代があり、当時悩んでいた時期に北海道の酪農家を視察し、牛を長持ちさせることの重要性を認識され現在の長命連産型の経営へと考え方を換えられました。

今回の考え方を実施しても同様の結果はでないかもしれませんが、参考事例として各牧場に合った方法を見つけて、長命連産について改めて再考してみてください。

今回の記事に関して何かご不明な点があれば営農指導課までご相談下さい（TEL 096-388-3510）。



COLUMN —コラム—

酪農がもたらすもの



熊本県農林水産部生産経営局
畜産課 課長
安武 秀貴

競馬場。競走馬の鍛え抜かれた筋肉、立ち姿、ジョッキーとの息を合わせたレースでの疾走。一度みれば誰しもその視覚的情景に感嘆するのではないかと思います。これらの馬たちに惚れ惚れとして見入ること・・・時の経つのを忘れてしまっ

て。颯爽と疾走する競走馬とある意味対極にあるもの。乳牛が集った共進会会場。品位に満ちた乳牛がずらっと並ぶ立ち姿は、正しく芸術の域にあると思います。本当に美しいという表現がぴったり。酪農家の方々の日頃から愛情を込めた飼養管理や改良の成果の顕れです。

その芸術的家畜から生産される生乳。小さい頃から、牛乳が好きで毎日1リットルは飲んでいると思います。その効能なのか還暦を数年後に控える年齢になりましたが、牛乳・乳製品の豊富な栄養に支えてもらいながら運動を継続的に行っていることもあり、体力には比較的自信があります。

最近、牛乳を愛飲することに加え、牛乳・乳製品を利用した料理作りに大変興味を持つようになりました。とりわけJミルクレシピは私の貴重な情報源です。牛乳、クリーム、バター、ヨーグルト等を使用したレシピに魅了され、目に留まった料理に挑戦し、トライ&エラーを繰り返しながら、かなり腕を上げたなど自負しているこの頃です。お菓子、パン類、煮込み系などに牛乳・乳製品は欠かせません。最近では和食にも合うということで、乳和食のレシピ情報も豊富にネットで検索できるようになりました。

私は昭和40年台前半の生まれです。幼少期

はコンビニエンスストアや量販店がほとんどない時代（田舎なのでそもそも店がありませんでしたが・・・）で、今のようにバラエティーに富んだ食料事情ではありませんでした。そのような時代に私にとって最も豪華で贅沢な食べ物であったのが牛乳豆腐でした。我が家の隣が酪農経営を営んでおり年に数回程度初乳をいただき祖母が作っていました。大変濃厚で独特のコクと豊かな味は今でも忘れられません。

昨年、牛乳豆腐を自分なりに挑戦してみました。最初にしてはよく出来たと思いますが、その当時の味には遠く及びませんでした。いずれは、あの時の‘牛乳豆腐’を自らの手で再現したいと思っています。

私はどちらかといえばアウトドア派で休日家に籠ることはほとんどありませんでしたが、コロナ禍を機に家の中でもできる何かないか？ということで、これまでもやっていた料理に一段と力を入れるようになりました。食生活、味の好みは十人十色。万人受けする大正解などありません。自分好みの究極の料理は最終的には自ら見出すしかないというのがそのモチベーションです（例えば、あんこの半分または全部をクリームチーズに置き換えて作ったいきなり団子とかは個人的に気に入っています。）。食文化には無限の可能性があります。今後の私が個人的にクリエイトする食文化に欠かすことのできない貴重な食材の筆頭が牛乳・乳製品です。

飼料・資材価格の高騰、牛乳の消費低迷など酪農業を取り巻く環境は大変な逆風にあり

ます。乳用牛の改良、酪農・飼料生産基盤の維持・強化、酪農家の経営安定、牛乳・乳製品の消費拡大など課題は山積みです。特に酪農業の振興を図る上で消費者の理解醸成は避けて通れないと思います。冒頭申し上げました私にとって恍惚感をもたらす牛乳の芸術性や食文化を彩る牛乳・乳製品の価値ひいては

酪農業がもたらす恩恵をもっともっと多くの消費者と分かち合いたいと強く願ってやみません。

最後になりますがこれらの課題を皆様方と一緒に考えながら、持続可能な酪農業に向けて取り組んで参りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

安武 秀貴 課長 経歴

平成4年4月入庁	天草農業改良普及所	平成28年4月	阿蘇振興局農業普及振興課 課長
平成7年4月	草地畜産研究所	平成30年4月	団体支援課 審議員
平成10年4月	大阪事務所	平成31年4月	畜産課 審議員
平成13年4月	畜産課	令和3年4月	玉名振興局 農林部 部長
平成17年4月	農林水産省畜産企画課	令和4年4月	畜産研究所 所長
平成19年4月	農林水産政策課	令和6年4月	畜産課 課長
平成22年4月	畜産課		

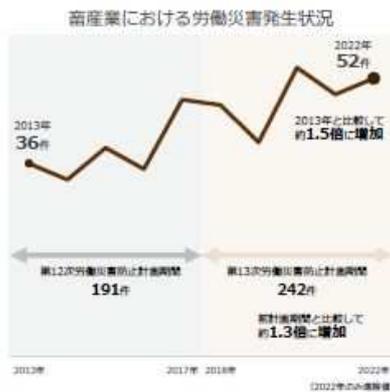


農作業事故注意報

動物は突発的な行動をとる場合があるので注意しましょう！

農作業中の負傷事故が発生しています。

○食肉用馬を手綱を引いて散歩させていた際、暴れ出した馬の後ろ脚で顔面を蹴られ、意識不明の重体。

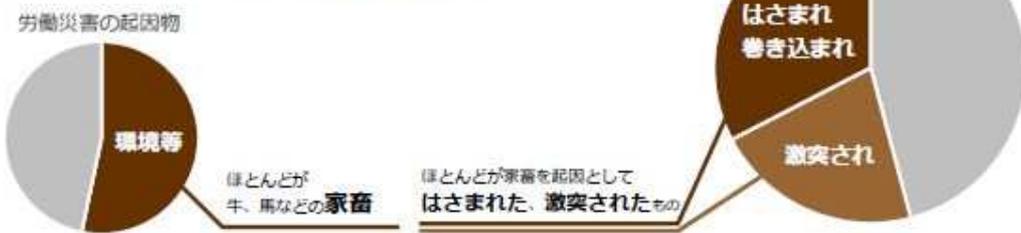


- ・畜産業における労働災害は10年前に比べて約1.5倍に増加しています。
- ・2018～2022年の労働災害発生状況のポイントは次の2点です。



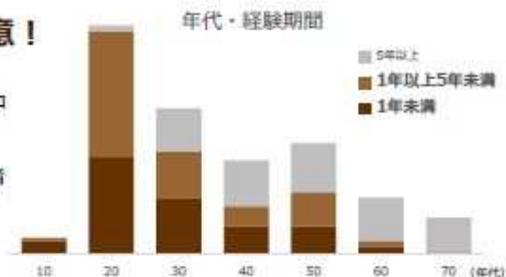
ポイント1 家畜を起因とした労働災害が多発！

- 牛、馬などの家畜を起因として、はさまれる、激突されるなどが全体の約半数を占めています。



ポイント2 経験の浅い労働者は要注意！

- ほとんどの年代で経験の浅い労働者(※)に集中して労働災害が発生しています。
※ 経験期間5年未満の労働者
- 全体では経験の浅い労働者が約6割を占めています。



出典:厚労省、(独)家畜改良センター「畜産業における労働災害防止対策のポイント」

安全対策のポイント

動物の行動をあらかじめ予測することは困難です。家畜の取扱いのポイントを理解し、**踏まれる、蹴られる可能性があることを前提とした安全対策を行う**ようにしましょう。

ヘルメット・安全靴・手袋の着用による安全対策

取組前

リスクのある条件

家畜を取り扱う場合、家畜の突発的な行動など避けられない危険性がある。



取組後

リスクを低減した条件

ヘルメット・安全靴・手袋といった個人用保護具を利用することで重大事故を防止。



家畜を驚かせない動作など家畜の取扱いによる安全対策

取組前

リスクのある条件

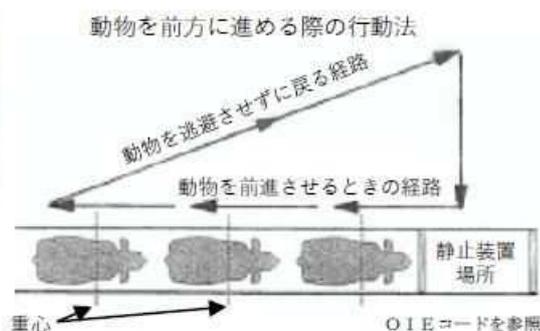
家畜は目前や死角(真後ろ)に立った場合、怯えから攻撃的になる場合がある。



取組後

リスクを低減した条件

行動パターンを理解した上で家畜に接することで安全性を向上。



出典:農水省「家畜による事故の防止の取組」【お問い合わせ】熊本県農林水産部生産経営局農業技術課
 協力:(独)家畜改良センター TEL 096-333-2380 FAX 096-381-8491

夏の乳牛の健康を守るために ～暑熱時の代謝と対策～

技術課 久田真規子

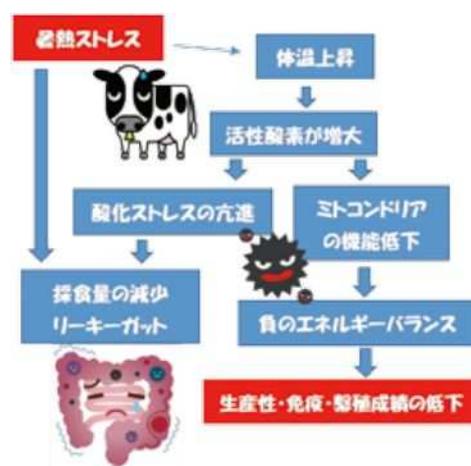
乳牛にとっての暑熱ストレスは、乳量・乳質低下や健康・繁殖の問題など莫大な損害を与えます。それは単に採食量が落ちることからの免疫力低下が原因ではなく、後述する腸の健全性が損なわれていることが重要な問題となっています。まず暑熱ストレスの腸への影響とその対策について書きます。

(1) 暑熱ストレスと代謝

暑熱期の生産性の低下は①酸化ストレスと②腸への酸素不足が原因と考えられます。

①**酸化ストレス**：ふだん、ヒトも牛も摂取した食べ物（餌）を、呼吸によって取り込んだ酸素を使って各細胞内のミトコンドリアでエネルギーに変えて活動しています。酸素を使うと酸素の一部は細胞を傷つける活性酸素になると言われており、自分自身を酸化させようとする力を「酸化ストレス」と言います。暑熱ストレスで体温が上昇すると、ミトコンドリアの中で活性酸素発生量が増加し、酸化ストレスとなります。

②**腸への酸素不足**：暑熱期の乳牛は、蓄積した熱を放散しようと、体表の血管を太くし血流量が増えます。その結果、腸に回る血液量が減少し、腸は酸素不足に陥ります。健康な牛の腸管上皮細胞はタイトジャンクション（密着結合）という構造で細胞同士が結合していて、細菌やウイルスなどの有害物質は通過できないバリアとなっていますが、細胞間の接着が緩くなり、隙間が生じます。そのため、健康な腸ならそれほど吸収しなかった内毒素であるエンドトキシン（LPS）の吸収量が増加します。この状態を腸漏れ症候群（リーキーガット）と呼びます。バリア機能が失われ、病原菌や毒素などの透過性が高まり、結果的に細胞の損傷や腸の炎症を引き起こします。



(2) 吸収されたLPSが与える影響

吸収されたLPSは免疫系を活性化し、炎症物質の生産を促進することで全身性の炎症状態になり、発熱、乾物摂取量の低下、筋力の低下、胃腸などの消化器障害、肝機能障害、起立不能などを起こします。また、活性化された免疫系が糖を消費することによって、乳生産の著しい低下が引き起こされます。

その他にも非感染性の子宮内膜炎症を起こすことで繁殖成績の著しい低下が起き、長く続く暑熱ストレスの結果、免疫は疲弊して乳房炎は増え、体細胞は増加し、受胎率低下・流産を引き起こします。これらは暑熱ストレスを受けている限り、長く続くことになります。

(3) 暑熱ストレスへの対策

暑熱対策で最も大切なことは、乳牛へのストレスを軽減させる環境づくりです。環境対策を実施した上で、追加の具体策についていくつかご紹介します。

① 酸化ストレス対策

：抗酸化剤（ビタミンE、セレン、ビタミンC）の利用
これらはそれぞれ助け合って作用するため、1つだけでなくそれぞれを過不足なく給与することが重要

② ルーメンアシドーシス対策

：牛の様子を確認しながら飼料設計を見直す
重炭酸ナトリウム、炭酸カリウムなどの添加も有効

③ LPS対策

：酵母細胞壁や鉱物系ゼオライトによりLPS吸着

④ 生菌剤（枯草菌・乳酸菌など）の給与

：免疫活性、悪玉菌の抑制

これらの対策により暑熱時の腸管の健康維持とダメージを軽減できます。環境対策と合わせて、農場毎にあった対策をぜひ実践してください。

